

入選

言葉の壁を越えて

宮崎県 宮崎東中学校

三年 富田 妃華

2年前の11月、私はインターナショナルスクールの友人と、ベトナムの小学校へ行き、ボランティアをした。

小学校に到着したとき、なにをしていいかわからず、私は一人で立ちつくしてしまった。私はまず、小学校の子どもたちに英語を教えることにした。私は、

(いつも友だちと英語で会話しているから、小学生に英語を教えるなんて楽勝でしょ。)

と楽天的に考えていた。けれど、いざ子どもたちに教えてみると、全く言葉が通じず、私は子どもたちへの申し訳なさで胸がいっぱいになり、泣きそうになりながら、

「ソーリー。」

と言った。すると、子どもたちが戸惑いながら首を振り、

「サンキュー、ソーマッチ。」

と笑顔で言ってくれた。そして、私のわかりにくい説明を一生懸命聞いて、たくさん質問してくれた。さらに、私にもベトナム語を教えてくれた。私も嬉しくなり、

「カムオン。」

と、ベトナム語で「ありがとう」を伝えた。

そのあと、自分の準備不足を後悔して落ち込んでいる私のもとに、さっきの子どもたちがやってきて、私の手を引いて、現地の遊びを教えてくれた。落ち込んでいる私をなぐさめようと気にかけてくれる「小さな親切」が、とても嬉しかった。

私は前と同じではいけないと思い、今度は簡単な英語と身振り手振りでコミュニケーションをとりながら、楽しく遊ぶことができた。気がつくと、私も子どもたちもそれまでの緊張がとれて、心から笑い合っていた。

それからは、子どもたちに給食を作って配膳したり、小学校の壁を修復したり、子どもたちが喜びそうなことを見つけて、率先して行うことができた。心の壁がなくなった私に、子どもたちも気軽に話しかけ、手伝ってくれた。そのおかげで、振り返ると私の周りにたくさんの人が集まり、大きな輪が出来ていた。みんな笑顔だった。

違う国の人と、交流することは難しい。言葉の通じない相手なら、なおさらだ。けれど、言葉が通じないからといってあきらめるのではなく、笑顔や「ありがとう」という言葉で歩み寄ろうとすれば、よい関係を築くことができ、仲よくなれるのだろうと私は思う。

笑顔や相手を思いやる心に国境はない。私は、このボランティアを通して、そのことに気づかされた。きっとこの先、一生この経験を忘れることはないだろう。

もし、また言葉の通じない人たちと出会ったら、今度は私から笑顔で歩み寄り、言葉の壁を越えて心を通わせようと思う。